

主な評価結果に対する普及指導計画（活動）への反映状況等

評価項目	主な評価結果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の体制	<p>新技術の開発・実証について、関係機関と調整して常に体系的に整理し、必要であれば、産学官連携などの取組も積極的に企画してほしい。</p>	<p>農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場及び関係機関が連携して専門分野ごとに主要品目の課題を整理し、技術を体系化する農業技術体系化促進会議を開催するとともに、現地での調査研究を実施する。</p> <p>農業総合試験場等で開発された新品種・新技術については、農業革新支援専門員が中心となり、試験研究機関、生産者、実需者、農業関係団体、大学、民間と連携して、実用化技術研究会の開催や産地ブランド発掘事業の実施により、現場への普及推進に取り組む。</p> <p>また、本県施設園芸の生産性向上を図るため、あいち型植物工場推進事業において、普及指導員が農業団体や民間と連携して、ICTを活用した高度な環境制御に取り組む産地を支援する。</p>
	<p>普及指導員の資質をさらに高めるためには、コミュニケーション能力やコーディネート能力を実践的に高めていける教育プログラムなど、今までにない視点も取り入れてほしい。</p>	<p>新任の普及職員の早期育成を図るため、課内で育成チームを組織し、OJTによるコミュニケーション能力等の向上に努める。</p> <p>また、普及指導活動の成果を普及指導活動の方法に視点をあててポスターにまとめる研修を新たに加え、普及指導活動の方法について討議するプログラムを加え、実践的な資質向上を図る。</p>
	<p>チームを組んで課題にあたるケースもあることから、人員の確保が必要である。</p>	<p>「農起業支援センター」を県内8か所の農林水産事務所農業改良普及課内に設置し、新規就農希望者に対する就農相談や就農後の生産技術指導など内容に応じたチームを編成し就農支援活動を行う。</p> <p>また、各農業改良普及課に、経営指導推進プロジェクトチームを設置し、経営指導技術や手法等の習得に関する職場研修の実施等により、普及職員の経営指導力の強化に取り組む。</p>

評価項目	主な評価結果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の計画	<p>一般県民に向けて、本県の農業戦略を起点とした課題選択の仕組みを明示することが必要である。</p>	<p>普及指導計画における課題設定の基本となる「普及指導活動の課題」を整理して「協同農業普及事業の実施に関する方針」を取りまとめ、県のwebページで公表している。</p>
	<p>関係機関を含めた役割分担を俯瞰して戦略を立案し、常に地域や時代の流れに沿った課題、県域への普及性を意識した課題設定が重要である。</p>	<p>各農業改良普及課で農業改良普及推進会議を開催し、農業者の意向の把握や関係機関・団体の各種施策と普及指導計画との連携及び調整を図り、地域や時代の流れに沿った課題を設定する。</p> <p>各地に農業塾が開設され、地域農業の新たな担い手を確保・育成する役割が大きくなっている情勢に即して、新たに「農業担い手確保育成推進費」を予算措置し農業塾の運営や相互の連携を支援する。</p> <p>「農業経営力向上支援事業」においては、次世代を担う農業経営体の育成に向けて、農業の法人化を推進するため、法人化研修、個別相談に加え、新たに「税理士等の専門家派遣」に取り組む。</p> <p>なお、平成28年度から、農業生産力パワーアッププロジェクトとして、各地域に関係機関、団体等で構成するプロジェクトチームを設置して、主要産地、品目ごとに10年後を展望した「産地戦略」を取りまとめ、関係者が一体となった取組を展開している。</p> <p>また、地域で確立した技術や各農業改良普及課の普及指導活動成果については、農業革新支援専門員が農業技術体系化促進会議の開催や広域調査研究の実施などにより、県域への普及を図る。</p>
	<p>組織・仕組み・ネットワークづくりの課題は短期的な数値目標ではなく、組織的基盤や土台づくりを評価する工夫が必要である。また、計画策定において定性的な手順を明確に描くことも必要である。</p>	<p>地域資源を活用して活力ある地域づくりを支援する地域営農課題については、普及指導活動を担当する農業革新支援専門員が各農業改良普及課へ出向いて、計画策定、評価方法の助言を行う。</p>

評価項目	主 な 評 価 結 果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の実績及び成果	<p>「仕組みづくりのノウハウ集」の作成などにより、普及指導活動の成果を整理・蓄積（うまくいかなかった部分も含めて）し、普及指導員の育成に活用していくことが必要である。</p>	<p>各農業改良普及課の普及指導活動の成果をもとに、普及方法研修を実施し、ポスター形式で成果を整理・蓄積するとともに、分科会において成功要因・失敗要因を分析し、普及指導員の育成に活用していく。</p>
その他	<p>農業の多面的な役割は大きくなっており、普及事業も農外に働きかける活動を構想するなど、対象範囲を再考する時期にきているのではないかと。</p>	<p>中山間地域において、担い手が減少し、高齢化が進展する中で、地域の農地を維持し、多面的機能を発揮するため、集落営農の取組を支援する。</p> <p>近年増加している農作物の鳥獣被害に対応するため、集落ぐるみの総合的な対策や新たな被害防止技術の導入を進める。</p> <p>地域にある農地、水路、景観、人材等の資源を有機的に結びつけ、農業経営の維持・発展を目指す意欲ある経営体、新規就農者、高齢者、兼業農家等の地域の多様な担い手がやりがいを持って農業生産に取り組める地域づくりを支援する。</p>
	<p>新規就農から成長発展期、さらには高齢化に至るまで、長期持続的に農業に携わることができるモデルづくり、サポート体制づくりを実現してほしい。</p>	<p>「新たに農業経営を営もうとする青年等の農業経営モデル」、「効率的かつ安定的な農業経営（基幹経営体）モデル」などを集約して、経営の発展段階に応じた支援に努める。</p>
	<p>評価会議を普及事業の目標の確認、成果の検証、次年度の課題の模索の場としてはどうか。</p>	<p>今年度の評価会議の開催結果を踏まえ、次年度の開催方法を検討する。</p>
	<p>農業分野における女性の進出を大いに期待したい。</p>	<p>女性農業者の農業経営への参画に必要な知識・技術の習得のための研修会を開催するとともに、社会参画の推進の場を拡大することにより、女性農業者の活躍を支援する。</p> <p>また、女性農業者応援企業と女性農業者のマッチングの場の提供、女性の能力・感性が活かせる分野の企業との連携を目的に、企業が女性に向けて開発した製品等の紹介や機械の操作を体験する「女性農業者応援企業セミナー」を新たに実施する。</p>